
おうち

cod

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おうち

【コード】

N1048N

【作者名】

cod

【あらすじ】

人を殺した。帰ろう。

人を殺した。比較的若い男だった。殴って殴って最後は首を食いちぎって殺した。特に罪悪感もないので後悔もしていない。先に母さんを殺したのはそちらなのだし。とりあえず、今はこの手元にある首を、家まで持って帰ることに専念しよう。多分、追っ手が来ることはもう無い。無駄だと分かったと思うから。

雪が降っている。この地方ではあまり降らないのだが、昨日から降り続いて、もう一面銀景色だ。視界の端に映る民家の屋根から、耐えきれなくなったそれが、ガサツと音を立てて落ちた。少し寒い。

歩いてても歩いてても、なかなか家まで辿り着かないので、少し休憩することにした。そこら辺に腰を下ろす。冷たい。

来るときはそこまでの距離だと思っていなかったのだけれど、着くにはまだまだある。

多分それほど興奮状態だったのだろう。今は、自分でもびっくりするほど冷静だ。雪のせいかもしれない。と言っても、来るときも降っていたけど。

そんなことを考えていたら、近くで音が鳴り響いた。それと同時に、首の辺りに痛みを感じたので、振り返ってみると、そこには人の群れがいた。みな一様に僕に向かって長い棒のようなものを構えている。手元に転がる男が使っていたのと同じものだ。丁度良いのかも知れない。何度もそれでやられたせいで、足はとっくに使い物にならなくなっていた。薄れる意識の中で、何度も何度も音が鳴り響く。体が揺れて視界がぶれる。最後に見えたのは、母さんが眠っている、僕の家だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1048n/>

おうち

2010年10月28日07時18分発行